

東海道線の下り列車に乗って、平塚駅を過ぎてしばらくすると、右側（海と反対側）に小高い丘陵地が見えてきます。丘陵は「相模川」と「酒匂川（さかわがわ）」に挟まれた地域、駅でいうと大磯駅、二宮駅、国府津駅までの東海道線北側に続いています。この丘の連なりを「大磯丘陵 Oiso Range」といいます。一番西側（酒匂川側）の境界は「国府津-松田断層 Kozu-Matsuda Fault」を形成しています。

この大磯丘陵は、地質的に非常に複雑な地域で、岩石の観察には大変興味深い場所です。一例をあげても「安山岩・玄武岩火砕岩（池子層）」「凝灰岩質砂岩（二宮層群）」「火山灰層（下末吉層）」「砂岩泥岩互層（三浦層群）」などです。これらが、小さな谷筋から丘陵の山頂付近にかけて極めて複雑にからみあっていて、地質図を見ても読図が困難なほどです。

大磯駅から湘南平（大磯丘陵のピークの一つ）に向かう登山道でも、いくつかの岩石露頭が見られました。その土地の地質を調査するには、露頭の岩石を観察することが重要です。転石はどこからきたものか判別できないからです。写真の露頭のものは、まだ続成作用が進んでいない地層で、岩石というよりも固まった粘土のような質感で、ハンマーなしでも手で崩せるほどでした。組成や粒状性から見て、「凝灰岩質砂岩」で、恐らく葉山層群大山層に由来するものだと思います。三浦半島、江の島などにもよく見られる地層で、この露頭のものの、江の島で見たものと同じでした。葉山・江の島・大磯の地層は地図でも直線上にあり、地質的にも一直線につながっている証拠の一つなのでしょう。

（2025 年 4 月下旬／神奈川県大磯町）

